災害科学国際研究所
IRIDeS
International Research Institute of Disaster Science

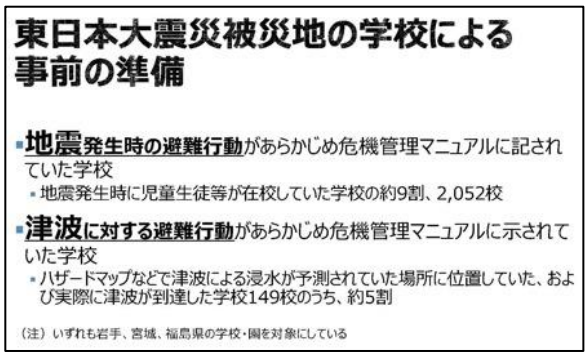
「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害国際協力セミナーを実施しました (2020/9/26)

テーマ：学校防災と国際協力、災害医療の国際協力、災害後のシェルターと住宅復興
場　所：オンライン（ホスト：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市））

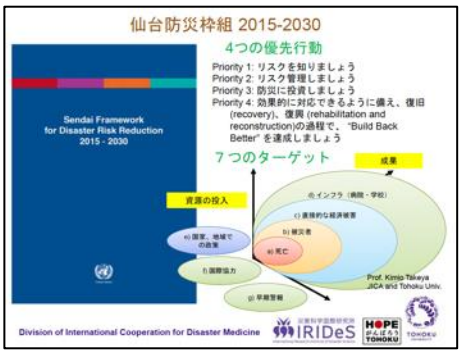
2020 年 9 月 26 日（土）、文部科学省補助金事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害国際協力セミナーをオンラインで実施し、プログラム履修生 24 名（医療従事者、消防職員など）、オープン参加者 1 名の計 25 名が受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が全体進行、江川新一教授（同災害医療国際協力学分野）、桜井愛子教授（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）、マリ・エリザベス准教授（同国際研究推進オフィス）が講師を務めました。

ふだん病院や消防署、役場などに勤務しているプログラム履修生は、学校防災教育や災害後の被災者住環境の変遷、災害医療の多国間連携など、「日常業務外の災害の話題」に接する機会はほとんどありません。しかし、発災後に避難所として利用される学校組織や子ども達の安全・健康の課題、避難生活の住環境やコミュニティ形成が被災者の心と身体に及ぼす影響に係る課題は、いついかなる災害においても保健医療支援者が直面する課題で、時として保健医療よりも大きなウェイトを占めるニーズです。これら、他分野の災害課題についても学際的に学習し、災害を多角的にとらえ、現場で他組織と効果的に連携できる能力を育成することが、本プログラムの人材育成目標のひとつで、特色にもなっています。桜井教授が世界の自然災害や包括的学校安全、災害に強い学校作りについて、江川教授が仙台防災枠組、ARCH プロジェクトについて、マリ准教授が住宅復興と健康について講義を行いました。履修生は、災害保健医療人材として現場で連携する他分野の取り組みについて、幅広く理解を深めることができました。

今回は新型コロナウイルス感染症蔓延を鑑み、Zoom によるオンライン形式でセミナーを開催しました。コロナ禍での新しい災害医学教育のあり方を「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」でも模索しています。



桜井教授が学校防災について解説



江川教授が仙台防災枠組について解説

マリ准教授が住宅復興について解説

学校防災について全員で討論（オンライン）

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）